

## 17 発達障害児をもつ家族を支える療育システム

自立支援局 秩父学園 地域支援課 地域療育支援室 村上功二、島田由起子

はじめに

近年、発達障害児が増加してきており、子どもの支援はもちろん、ご家族を含めた総合的なサービスの拡大・質の向上が求められている。特に、ご家族は診断後、お住まいの地域において、どう子育てをしていけばいいのか、将来に向けて何をすればいいのか、不安を抱えて生活している方が多いのが現状である。秩父学園における通園療育部門において、ご家族に対してアンケートや話し合いを行い、秩父学園におけるサービスの課題、地域で欠けているサービスは何かを明らかにし、ご家族を支えるのにふさわしいサポートについて考える。

方法

ご家族に対して行ったアンケート、相談、グループでの話し合いなどからのニーズを把握して、ご家族を支えるサポートのあり方について検討する。

結果

①秩父学園での、こどもの発達支援、療育相談、勉強会、ピアカンファレンス、親の会、通園機関へのサポートといったご家族のサポートの種類・内容については、おおむね、下記②～⑥の課題を提起された以外は満足感が高い。②幼児期・学童期（小学生まで）共に、療育相談をする時間を十分に確保してほしい③通園（通学）機関によっては、秩父学園と一貫した支援が出来てなく、「保育士（教員）の専門性を高めてほしい」、「情報交換を密にしてほしい」といった連携強化の希望が多い。④地域で専門的な療育相談が出来る社会資源の不足を訴えるご家族が多い。⑤秩父学園卒業後の支援・相談が次のステージへと上手くつながらないことに不安を抱えている方が多く、成人期までの一貫した質の高いサービスの提供、理解ある支援者に長くサポートを願うご家族が多い。⑥親の会は、特に、知識・経験が豊富な先輩母からのアドバイスを聞ける機会があるのが心強いと思われる方が多い結果となった。

考察

①こどもの発達支援、療育相談、親の会での支え合いを、全ての市町村で、地域格差なく実施する。②関係機関との連携システムを強化し、情報を共有し、成人期まで、一貫した支援を行う。③関係する職員の専門性向上。④各市町村における、児童発達支援センター（事業所）、特別支援学校、各学校の特別支援教育コーディネーターが中心となり、地域の関係機関を育てていくシステム。⑤発達障害児に関する支援プログラムの統一、支援者の特定研修の義務化や国家資格化。以上の5点の整備・強化がご家族を支えることにつながるのではないかと。

まとめ

ご家族は子どもの発達支援、知識・経験が豊富な先輩母とのつながり、通園・相談機関の専門性向上、関係機関の連携強化を願っている。全ての市町村において、質の高いサービスが提供できるよう、先進的な地域や国立機関である秩父学園からのモデル発信が求められている。